平成30年度　武蔵野市立第一小学校　学校評価報告書（案）

平成31年2月5日
校長　　新井　保志

評価→A：十分に達成されている　　B：概ね達成されている
　　C：達成がやや不十分である　D：達成が不十分である

項目	重点目標	評価	取組状況・成果・課題	改善策・対応策	項目に関する学校関係者評価における意見
教育目標「自分も人も大切にする子」について	（１） 相手の目を見て爽やかなあいさつができるようにする	C	生活指導の重点目標として全教職員で取り組んできた。児童アンケートでは肯定率が85%、保護者アンケートでは79%であった。学校内での友達同士や教職員へのあいさつを励行すると共に、地域でお世話になっている方々に対してもきちんと挨拶をする習慣をつけることが課題である。	現在の指導の方向性を大切にし、全教職員で指導の徹底を図る。 課題を明確にし、全教職員で取り組みの仕方とその成果を確認しながら指導を行う。今後重点的に取り組むことは以下の5点である。 1. 相手の目を見て、笑顔で自分からさわやかなあいさつをすることを今後も大切にし、教職員が児童に手本を示しながら指導する。 2. 丁寧な言葉遣いをすることが相手を思いやることにつながることを伝えながら、授業中はもちろん、日常生活においても時と場に応じた丁寧な言葉遣いができるように指導の徹底を図る。 3. 授業や各行事のねらいを明確にし、様々な教育活動の中で児童の小さながんばりや成長を認め励まし伝えていく。 4. 達成感や自己有用感及び自己有能感を大切にした教育活動を行うことを通して、学校と家庭とが協力し、いじめの根絶に向け全力を尽くす。 5. 児童が安心して楽しく学校生活を送る中で、良好な人間関係をつくりながら、感動のある学びを通して豊かな心を育てる。	・学校を訪れたとき、子どもの方から気持ちよくあいさつしてくれ、高学年ほどきちんと出来ている。来校者にあいさつする習慣がある事は不審者対応としても有効である。一方、地域で見守りに立っていると、大人からのあいさつが多く、またあいさつが返ってこないことも多い。知っている人にはあいさつするが知らない人にはあいさつしない傾向があるのは昨今の状況を考えると、不審者対応上、致し方ないのかもしれない。地域と学校が連携した行事を通し「顔見知り」をつくり、地域との繋がりを作っていくことが大切である。 ・家庭や学校では良い子なのに、学童やあそべえでは、指導員などに対して悪い言葉や態度をとる子どももいる。相手が、親か教師か、又はあまり自分と利害関係がない人かで態度を変える傾向がある。また家庭においても、メディアやきょうだいの影響を受け、悪い言葉遣いになっている。でも場によって使い分けするのは成長の一つの過程として捉え、家庭、地域、学校で気にし続け、場に応じたふさわしい言葉遣い、相手に対し失礼のない言葉遣いを教えていく必要がある。
	（２） 授業中を中心に丁寧な言葉遣いができるようにする	C	授業中に発言する際、「～です。～ます。」等、児童が丁寧な言葉遣いで話す姿が日常的になってきた。保護者アンケートによる肯定率は83%であった。日常生活の中でも丁寧な言葉遣いをすることができるようになることが課題である。		
	（３） 自尊感情を醸成し、自己肯定感の高い児童を育てる	B	「できる・わかる・のびる」が実感できる授業づくりが定着し、「授業がよくわかる」という児童アンケートの肯定率は90%であった。また様々な学校行事への取り組みを通して、達成感や満足感を味わい自尊感情が育ってきている。保護者アンケートの肯定率は92%であった。		
	（４） 他者理解を進め、思いやりあふれる児童を育てる	B	学年や学級の中で協力をすることにより成し遂げる喜びを体験したり、なかよし班活動やクラブ・委員会活動等異学年交流をしたりすることを通して、相手を思いやりあいながら行動する児童が育ってきている。「やさしい気持ちや親切な態度」について、保護者アンケートによる肯定率は95%であった。		
	（５） 豊かな心を育て、互いを尊重し合い高め合う人間関係を作る	B	集団宿泊や様々な学校行事を通して豊かな心が育ってきている。また、児童の言動から互いを尊重し合い高め合う人間関係が構築されつつある。「互いに高め合える人間関係」について、保護者アンケートによる肯定率は93%であった。		

《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》
〇まずは大人（教員）が範を示し、率先してあいさつするところから児童にも影響をさせていくようにする。
〇児童、教職員が地域行事へ積極的に参加することや、にこにこ見守り隊、Pマモの方へのあいさつを積極的に行うよう意識付けることから、地域の方と顔見知りを増やし、地域との繋がりの強化を図る。
〇児童の成長の過程や、メディア等で言語環境に悪影響がある事を理解しつつ、心地よく礼儀正しい言葉遣いを学校も家庭・地域も気にし続け教えていく。

項目	重点目標	評価	取組状況・成果・課題	改善策・対応策	項目に関する学校関係者評価における意見
教育目標「自ら学ぶ子」について	（６） 学力向上のための取り組みを推進する	B	昨年度の研究発表会の成果から、授業改善に日常的に取り組む風土ができてきている。市の教育課題研究開発校として外国語教育にも取り組み少しずつ成果が上がっている。全国や東京都の学力調査の結果においても本校児童の学力は、全ての項目において東京都の平均を上回っている。保護者アンケートにおける肯定率は、「基礎基本の理解」が90%、「授業の工夫」が95%であった。	確かな学力の定着及び向上を図るためには、児童が「わかる・できる・のびる」ことを実感できる授業づくりをすることが大切である。 そして、学習活動においては、発達段階をふまえつつ各学年、学級において自分の思いや考えを伝え合い、それらを深められる学び合いをすることも大切である。今後、重点的に取り組むことは以下の4点である。 1. 市の教育課題研究開発校（2年次）として、外国語教育（外国語活動・英語）を窓口とした校内研究を通して、すすんで楽しくコミュニケーションを図り、学び合うことのできる児童の育成を図る。 2. 学級における学習のきまりを徹底し、各教科等において基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。また、授業の中で発表の形態や場面を工夫し自分の考えや意見に自信をもたせていく。 3. 今年度実施した体験活動の内容を吟味し、今後さらによりよい活動を目指す。 4. 児童の学習意欲の向上と深い学びの実現につながるICT機器活用の研修会を計画的に行う。	・授業中の発言、発表の多さは性格も影響している。授業を理解していても手を挙げない子は挙げない。しかし学校公開など、子どもが張り切る場面ではよく発表できている。少人数で一緒に発表するなど、抵抗感が少なく発表できる場の工夫をして発言の経験を重ねていけば、自分の考えをすすんで表現できる力が育っていくのではないか。
	（７） 言語活動を大切にしながら思考力・判断力・表現力を育てる	C	授業改善を進める中で、自分の考えをもち、すすんでコミュニケーションを図る児童の姿が見られるようになってきた。それに伴い、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力も育ってきている。保護者アンケートにおける肯定率は91%であった。「自分の意見を発表する」ことについての児童アンケートの肯定率が67%であり課題である。		
	（８） 体験活動の充実を通して感性を豊かにするとともに、好ましい人間関係を構築し規律ある生活習慣を定着させる	B	一小まつり等ロング集会をはじめとする集会活動において異学年を尊重し合うかかわりが、たくさんみられるようになってきた。また、プレセカンドスクールやセカンドスクールにおける自然体験や社会体験を通し、好ましい人間関係を自分たちでつくる姿も見られ、豊かな感性や人間としての成長が感じられた。		
	（９） ICT機器の効果的な活用を通して授業改善を進める	B	各教室に設置された短焦点のプロジェクターを教員は授業において日常的に活用している。また、タブレットも児童一人一人が自分の課題解決のために授業の中で活用しており児童の主体的な学習を促進している。ICT機器を様々な場面で活用し学習の効果を上げている。		
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **〇児童が発言する意欲を高めやすい場の設定のや、発言の経験を重ね不安を持つことなく発言できる場の工夫などを通し、児童の表現力を高めて行く。**				

項目	重点目標	評価	取組状況・成果・課題	改善策・対応策	項目に関する学校関係者評価における意見
教育目標「健康な子」について	(10) 背筋を伸ばしよい姿勢を保てるようにする	C	年間を通し、毎週火曜の朝に行う「姿勢すっきりタイム」の効果として、学校全体で一斉によい姿勢についての指導を行うことができ、その結果として、よい姿勢を意識して生活する児童が増えてきた。しかしながら、保護者アンケート及び児童アンケートの肯定率はそれぞれ61%、64%であった。	健康でたくましい心と体を育むことが大切であると考える。心の健康、体の健康が児童の学習意欲を喚起し、このことが学力向上にもつながっていく。 今後重点的に取り組むことは以下の4点である。 1. 週に一度の「姿勢すっきりタイム」を継続し、全校で、よい姿勢を意識して生活することの大切さを実感させる。また、姿勢も含め、基本的な生活習慣の定着のため家庭にも協力を仰いでいく。 2. 体育の授業や体育的活動をさらに工夫し、体力向上のための様々な取組を継続していく。 3. 外遊びについては、今後も「天気のよい日は外遊び」を習慣化していく。 4. 学級活動、児童会活動、クラブ活動、なかよし班活動、学校行事等の特別活動をより充実させ、児童自ら考え判断し行動する機会をつくりながら、児童の自主的・実践的な態度を育てていく。	・現代の、椅子やソファーなどの生活スタイルが姿勢を保持する筋力の低下を招いているのではないか。そういう現状を補う意味でも、姿勢すっきりタイムの取組は有効だと思う。よい姿勢はどういう状態なのか、具体的に意識付けし気を付けさせていきたい。姿勢は、体幹を鍛えることでも良くなると思う。また、姿勢の良さが体力の向上にもつながり風邪などにも打ち勝つのではないか。
	(11) 健康への関心を高め健康の維持増進に取り組む子を育てる	B	学年に応じた資料を用意し保健指導を行うことにより健康への関心を高め、健康の維持増進を進めている。心のケアを求める児童にとって保健室は相談室の機能も果たしている。朝食を食べてから登校する児童の割合も多く、健康面における家庭の協力も得ることができている。		
	(12) 体力向上を図り健康でたくましい体をつくる	B	今年度も持久走旬間やなわとび旬間を年間計画に位置づけ、全校で取り組んだ。「中休みは全員外遊び」を励行したことにより、休み時間にすすんで外遊びをする児童が増えてきた。「体育の授業や運動への親しみ」について、保護者アンケートの肯定率は96%であった。		
	(13) 協働により集団の力を高め主体的な課題解決能力を伸ばす	B	児童が決めた「挑戦」をテーマとして、１学期は「あいさつ」、２学期は「人のためになる行動」、３学期は「自分のできなかったこと」等、児童がよりよい学校づくりのため主体的に課題解決に取り組む姿が見られた。「集団の高まり」について、保護者アンケートにおける肯定率は95%であった。		
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 〇「良い姿勢」の意義についても児童と共に考え、形・心両面から「姿勢すっきりタイム」に取り組むよう働きかける。				

項目	重点目標	評価	取組状況・成果・課題	改善策・対応策	項目に関する学校関係者評価における意見
学校や教職員について	(14) 学校の教育活動を広く知っていただくために様々なかたちで情報の発信を行う	B	PTAの運営委員会や青少協の地区委員会において教育活動の説明を行ってきた。保護者アンケートの肯定率は92%で高いものの昨年から5ポイント下がった。ホームページへのアップ頻度が減ったことが原因の一つと考えられる。今後、計画的にホームページによる情報発信に努めてていくことが課題である。	教職員が「子供たちの笑顔のために」心を一つにして教育活動を展開していくことが大切であると考える。 今後重点的に取り組むことは以下の通りである。 1. ホームページや「学校便り」等、保護者や地域の方々のニーズを考慮に入れながら、計画的に情報を発信していく。	・一小防災ネットワークの催しに5年生が参加しているのは継続してほしい。いつ災害が起こるかわからないので地域でも対策を立てている。回を重ねるにつれ、市の協力も加わり炊きだし、AEDや消火器の体験などやっていく広がりができてよい。何事も実際にやってみること、回数を重ねる事が重要である。
	(15) 児童や保護者、地域の方々が気持ちよく感じていただけるように教職員があいさつや言葉遣いを大事にとらえ実践する	B	全教職員がこの目標を受けとめてあいさつや言葉遣いには配慮している。保護者アンケートの肯定率は94%であった。児童の言葉遣いについては個人差がみられる。教職員が範を示す等指導を継続する。	2. 教職員の明るく元気な挨拶を励行することで、活気ある学校にしていく。	
	(16) 学習環境として大切な校舎内外の美化に努める	B	今年度から木曜日が７校時授業となり普通清掃の日が１日減った。その状況の中でも、児童が気持ちよく安心して学校生活を送れるよう、教員は教室内の環境整備を心がけている。また、用務主事は校舎内外の美化に努めている。	3. 学習環境の美化は、安全安心な教育活動に欠かすことのできない条件の一つである。今後も、継続的に行っていく。	
	(17) 災害時などに自らの命を守るために安全教育を推進する	B	避難訓練や学級での指導等において、児童に対して日常的に「自分の体や命は自分で守る」という指導をしている。避難訓練については地震、火災等様々な想定を考え実施している。児童は約束を守り避難できるようになり安全に対する意識の高まりが見られる。	4. 避難所として運営できるよう一小地域防災ネットワーク及び市の防災課とも連携を図りながら体制作りを含め準備を進めていく。	
	(18) 教職員が地域行事へ積極的に関わり学校と家庭と地域の連携を一層進める	B	夏祭りなどの地域行事に積極的に教職員が参加している。「地域や家庭との連携」について、保護者アンケートの肯定率は93%であった。		

学校や教職員について	(19) 本校の特色ある教育活動を推進する	A	今年度も保護者アンケートで最も肯定的な回答が多かったのが「宿泊行事や体験活動、授業を通して子どもには感動できる豊かな心が育ってきていますか」という項目であった（97%）。市の特色である４年生でのプレセカンドスクールにおける３日間の宿泊体験、５年生でのセカンドスクールにおける７日間の宿泊体験、自然体験、農業体験において成長する姿には目覚ましいものがあった。	5. 平成30年度も特色ある教育活動において多くの成果があった。それぞれの特色ある教育活動の中身が吟味され充実してきたからだと考えている。今後はねらいを明確にしさらに充実していくように関係機関と連携を深めていく。 6. 学校・家庭・地域の協力・協働により教育環境が整い、よりよい教育活動に繋がる。平成31年度も学校が目指す教育活動の説明を丁寧に行いながら、家庭・地域との協力関係を一層深めていく。 7.「チーム一小」として、教職員が互いに思いやり合いながら、「子供たちの笑顔のために」チームワークよく働きやすい学校を目指す。児童の成長を皆で喜び合い、達成感や成就感のある学校を皆でつくりあげていく。	
	(20) 学校・家庭・地域との協力・協働を通して児童によりよい教育環境をつくる	B	「子供たちの笑顔のために」という合い言葉を掲げ、様々な機会を捉えて家庭や地域に対して学校の教育活動に対する理解や協力をお願いすることで、今年度も「チーム一小」として協働することができた。この協力体制により教育環境が整い、学校は自信をもって教育活動を進めることができた。「相談のしやすさ」という点において、保護者アンケートの肯定率が91%となり２ポイント上がった。		・武蔵野ジャンボリー等の地域の行事に教職員が参加する等をしてほしい。
	(21) 本校の児童が仲良く楽しい雰囲気の中で意欲的に学べるように教職員に笑顔があふれ、元気に溌剌と教育活動が進められるよう管理職がリーダーシップを発揮する	A	「自分大好き」「一小大好き」な児童を育てるために、教職員同士がコミュニケーションを深め、相互理解を図りながら教育活動を進めることができている。その結果として、教職員一人一人がそれぞれの役割を果たし、チームワークよく様々な教育活動が展開され多くの成果が見られた。校長の学校づくりに対しての保護者アンケートの肯定率は96%であった。		
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ○避難所として運営できるよう一小地域防災ネットワーク及び市の防災課とも連携を図りながら体制作りを含め準備を進めていく。 ○児童が参加する地域の行事を通して、教職員と地域の方々とコミュニケーションを図り互いに理解を深められるようにしていく。				

その他	目標	取組状況・成果・課題	改善策・対応策
	(22) 吹奏楽団の活動について	今年度も、東日本学校吹奏楽大会では金賞を、日本管楽合奏コンテストでは最優秀賞を受賞する等、吹奏楽コンクールやコンテスト及び地域での演奏で活躍し、良い評価をいただいている。	・第一小学校吹奏楽団が今年も活躍できたのは、練習や各大会での保護者の方々の多大なるご協力によるところが大きい。今後も保護者や地域、関係機関に理解と協力を得ながら活動を充実させていきたい。